

心臓病について

病 名	病気の症状や対応について	難病の団体・HP
心臓病	<p>☆症状から見る心臓の病気</p> <p>胸の痛み、胸痛は、放置しても何も心配がないものから、胸痛を感じたその次の瞬間には死亡しているものまで、多種多様です。胸には、胸壁に包まれて、肺、心臓、食道、大動脈などの重要臓器が存在し、いずれも胸痛の原因となりえます。さらに、腹部の臓器の病気も「胸痛」の原因となることがあります。以下に、胸痛の原因となる疾患を列挙し簡単に特徴と治療法を解説しますが、胸痛は心臓、肺、大血管などの生命にかかわる重症疾患の徴候である可能性が常に存在しますので、信頼できる医師を受診することが大切であることは言うまでもありません。</p> <p>☆心臓病とは</p> <p>心臓病とは、心臓弁膜症、心内膜炎、狭心症、心筋梗塞、心臓神経症などの病名で呼ばれるもので、心臓に栄養を補給する冠動脈が狭くなったり、詰まる、心臓自身の力が弱まる、心臓の鼓動が不規則になる、などの病気の総称です。日本人の死因のトップはがんですが、その次が動脈硬化が主な原因となる心疾患、いわゆる心臓病です。動脈硬化の予防として必要なのは、太らないことです。そして、喫煙を止め、高血圧、高脂血症、糖尿病に気をつけ、血液を常に“サラサラ”の状態に維持することです。女性は更年期以降にコレステロールが増えていく傾向にありますので、該当する人は更なる配慮が必要です。</p> <p>動脈硬化の3大危険因子として、喫煙、高血圧、高脂血症があります。また、食生活の欧米化やライフスタイルの変化によって、肥満、ストレス、糖尿病なども加わってきました。それ以外にも、動脈が年齢以上に硬くなる原因として、喫煙、過度の飲酒、塩分・油分過多の食事、慢性的寝不足、ストレスなどが挙げられます。</p> <p style="text-align: right;">動脈硬化はあらゆる生活習慣と深い関係にあり、生命の危険を伴う重大な病気を引き起こします。動脈硬化の予防は中高年になってからではなく、若いうちから取り組むほうが効果的です。動脈硬化の進行そのものを遅らせるだけでなく、健康的なライフスタイルを無理なく築くことができるからです。</p> <p style="text-align: center;">日本心臓病学会HPより</p>	<p>日本心臓病学会 cc.gr.jp/index.html</p> <p>全国心臓病の子どもを守る会 heart-mamoru.jp/</p>

